京都CF! information

もうひとつの京都CF！がここにあります。
京都CF！スタッフブログ

「京都CF！編集長の無責任時代」「nao´s 京都牧遊記」など、京都CF！のスタッフが京都の街を綴ります。スタッフが街で見つけてきたオモロイもん、誌面では紹介できなかった取材の裏話や取材の現場をなどを、日々の奮闘ぶりと共に垣間見ることのできるのがこのブログ。スタッフブログへのアクセスは、下記の京都CF！ホームページからどうぞ。

http://www.kyotocf.com/

左京区妄想事件簿

2月某日、左京区にて事件発生
3月1日、事件未だ未解決なり

今月のオレが甘かった

う～ん、本当に事件だったのか、誰かのイタズラなのか…気になります

「せっ先輩！ じっ事件です！」と2月の寒空の中、チャリンコをすっ飛ばして編集部にやってきたアシスタントW。「殺人…いえ、殺犬事件です！」「なにぃ、犯人のめぼしはついてんのか？」「いえ、全く…」。ともかく犯罪者は現場に再び姿を現すことが多い…と刑事ドラマで確か言ってたはず。というわけで現場へ。「先輩、寒いっすね」「おう」「何か買ってきます」「おう」「アンパンと牛乳買ってきました」「バカ野郎！ 冬はあんまんと缶コーヒーって決まってんだよ！」 …な～んておバカな想像を掻き立てられたこの写真、詳細求ム。

■左京区、百万遍付近にて

Kyoto Car-Moratorium
～京都人のクルマ知らず～

2nd Lap

中島　崇（なかじま・たかし）
'68年生。自称「車選びの達人」。創業昭和38年、北区は紫野の自動車屋・（株）中島商会の二代目社長にして「安くていい車」を探すスペシャリスト。かつて自動車オークションの取引で2000万円をドブに捨て、大失敗の連続から学んだノウハウをまとめた無料小冊子「その車に手を出すな！」も好評。中島流「車道家元」を目指す京都人。

ナイスガイは結婚が遅れる《概念編》

最近、プロを唸らせるセンスの良いカスタマイズ車が本当に少なくなった。車本来のフォルムが完成して、卓越した感性がないと難しいのかもしれない。

「ナイスガイは結婚が遅れる」。アメリカの諺である。ナイスガイは誰にも嫌われないが、誰一人魅了することができない、という意味だ。新世代の車も同じ。「なんとなく個性的」、だけど「心を奪われる車」がない。

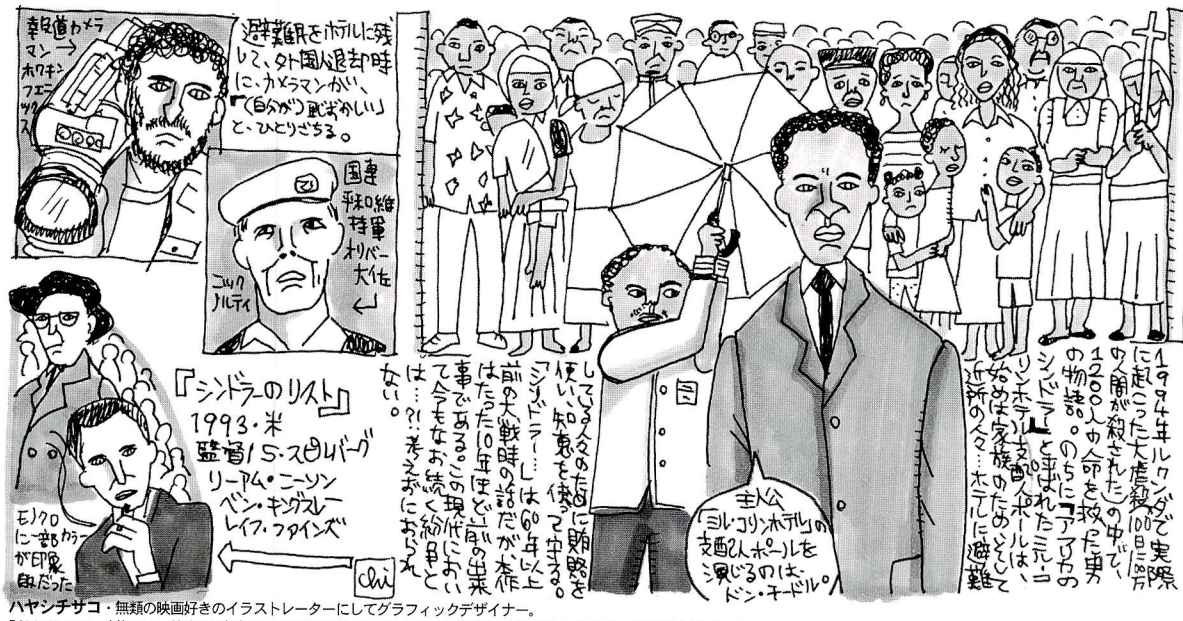
昨今はとあるエアロが流行れば皆が同じようなものを装着する傾向にある。中には雑誌の切抜きを持って「これと同じにして欲しい」という人も出てくる始末。これじゃ美容室に行って「アイドルと同じようにカットして」というのと全く同じである。下駄のように張り出した高価なFRPを付けるだけではなく、100円ショップで売っているものを工夫して、自分だけの一台を作るのも立派なカスタマイズだし、その方が断然格好良い。とにかく「自分のアイデアで安く車を楽しむこと」が大切。

だから既存のドレスアップ車もあまりお奨めしない。本当のカスタマイズとは「人と同じクルマじゃイヤ」という自己顕示欲の産物だ。簡単に言えば、信号待ちで自分と同じ車が横に並んだ時、「隣のライバルにはマネのできない小技を駆使し、嫉妬させること」に本当の楽しみがあるのだから。

次回はいよいよ、実際に廉価な素材を使ったカスタマイズを写真付きでご紹介しよう。

林的映画三昧

イラストと文　ハヤシチサコ



ホテル・ルワンダ
HOTEL RWANDA
2004/英+仏+伊
監督/テリー・ジョージ
ドン・チードル/ソフィー・オコネドー
ニック・ノルティ/ホアキン・フェニックス

ハヤシチサコ・無類の映画好きのイラストレーターにしてグラフィックデザイナー。
「Club Fame」時代には、彼女のデザインが表紙を飾ったこともアリ。編集部の熱望により本誌への登場と相成った。